きこえ・ことば

2023 年 6 月
小学部自立活動担当

保護者のみなさま、いつも発音の宿題のチェックや、お子さんとの取り組みなど、ご協力くださりありがとうございます。今年度も「きこえ・ことば」を通して、情報を発信していきます。どうぞよろしくお願いいたします。

汗をかく季節になりました　イヤモールドを清潔に！

あっという間に6月を迎えました。これからの季節は、結露ではなく、汗対策をすることになります。そこで、今回は、イヤモールドのお手入れについて、4年生以上の児童23名にアンケートを行いました。アンケートで尋ねたことは、1お手入れの頻度　2お手入れは誰がしているのか　3どのようにお手入れをしているのか　の3点です。以下に結果を報告します。

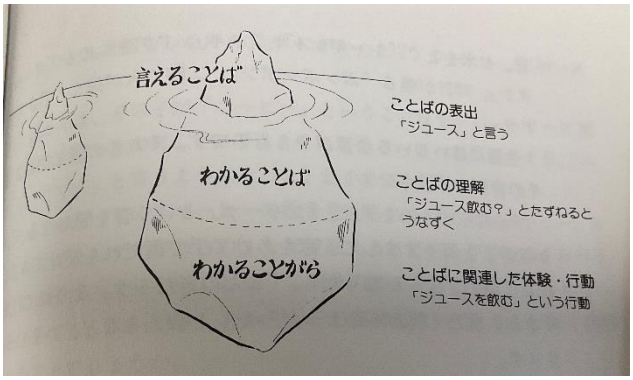
1　お手入れの頻度　①毎日　3名　②2～3日おき　1名　③週に1回　6名　④1か月に1回　6名　⑤全然していない　6名（イヤモールドを使っていない　1名）

2　お手入れは誰がしているのか　①自分で　6名　②自分、または家の人　14名　③家の人のみ　1名　④誰もしていない　1名

3　どうやってお手入れしているのか　①ウエットティッシュで拭く　12名　②水洗い　1名　③ぬるま湯で洗う　2名　④水やぬるま湯に洗剤を入れて洗う　4名　⑤その他　5名
（ブラシで擦る1名　洗浄機に入れる1名　乾燥機で乾かす2名　何もしていない1名）
（複数回答あり）

☆1日中、耳の穴に密着させて使うイヤモールドには、耳垢などの分泌物が付着しています。定期的なお手入れをすることにより、清潔に安全に使用することができます。「全然お手入れをしていない」と正直に答えてくれた子どもたちに感謝すると同時に、これを機に、イヤモールドのお手入れを始めてほしいと思っています。ご家庭でも、話題にしていただき、お子さんに、お手入れをするように声をかけたり、お子さんがお手入れをしている様子を見守ったりしていただけるとありがたいです。

「言えることば」を増やすためには



右の図は、「ことばの氷山」と呼ばれている図です。(「ことばをはぐくむ」中川信子著P109より) 言えることばを増やすためには、水面下の（目に見えない部分の）「わかることがら」や、「わかることば」を膨大に蓄積する必要があるということを視覚的に表しています。私は、初めてこの図を見たときに、大きなショックを受けました。と同時に、自らの語彙の乏しさは水面下のわかることばの足りなさに起因していることを改めて実感しました。ことばは、増やそう増やそうと思っても、そう簡単に増えるものではありません。まず、そのことばに関する事柄について体験し、「わかることがら」を増やすことが大切なのです。とはいえ、すべてのことを体験することは困難です。そこで、テレビ番組や動画配信サイト、SNS、本等で情報を得て、間接的な体験をする機会をコツコツと増やしていくことが必要になってきます。

私が今注目しているTV番組をご紹介します。NHK Eテレの「言葉にできない、そんな夜。」という番組です。ご存じの方はいらっしゃるでしょうか。この番組は、「感動以上の気持ち」や「何もせずに大型連休が終わったときの気持ち」など、たいていの人が一度は経験したことのある気持ちをどのように言葉で表現するかを、著名な作家の作品を通して、共感していくという番組です。見るたびに、こんな表現方法があるのかと驚かされます。毎週火曜日の夜２２：４５～２３：１５に放送されています。（再放送　翌週の火曜日１４：３０～１５：００）

語感を発音学習に生かす③ 「や・ゆ・よ」は「揺れる」音

母音の練習の後、や行音の練習に進んでいます。やの音は「い」と「あ」を続けて発音するようにすると言える音だと子どもたちに指導しています。「い」の音を言おうとするとき、舌が上がります。そして、「あ」と言い変わるところで舌は下がります。したがって、「ゆ」の音も「よ」の音も舌が上がってから下がります。子どもたちは、素早く舌を動かすことが難しいと感じているようです。舌が十分上がっていないと、明瞭なや行音を出すことが難しいからです。や行音がつく言葉を集めてみると、「やれやれ」「ゆらゆら」「よろよろ」「よたよた」「そよそよ」と「揺れる」語感の言葉が多いことに気づきます。この揺れるイメージは、まるで舌が口の中で上下に揺れている現象とつながっているように感じることもできるのではないでしょうか。このように、発音するときに口の中で起こっていることは、言葉の意味と密接につながっていることに気づくたびに、ことばの面白さに泥(なず)んでしまいます。